

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式)

3 2回目評価

学校名(京都市立西院中学校)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年2月19日	評価日	平成27年3月5日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る 言語活動を取り入れた授業改善 総合的な学習の時間の充実	・朝読書の完全定着と毎月の読み聞かせ実施 ・年3回の研究授業の実施 ・各教科での言語活動の充実 ・各教科で発表会等の双方からの言語活動 ・体験を通じた活動から、アウトプットする授業の工夫(ポスター発表など)	毎朝の朝読書と毎月の読み聞かせ回数 学習確認プログラムの各教科で、活用問題の指標結果 探究や体験を通じた活動から、ポスターセッションの実施回数	・ボランティアによる読み聞かせ12回実施 ・年3回の研究授業の実施 ・知識や理解の基礎的な力以上に活用問題の指標が、全市より高 3学年とも実施して、2、3年では外部にも公開	⇒	・全教育課程に於いて言語活動の充実(力)を注いだことにより、授業改善や学習確認プログラムの結果にも効果が出てきている。 ・「宿題以外に家庭学習に取り組んでいる」生徒の割合が目標の70%に達している。 ・「読書は好きである」と答えた生徒の割合が目標の80%に達している。	⇒	・学校が取り組んでいる「朝読書」や「ボランティアによる読み聞かせ」については継続していくことが大切。 ・学力については、キャリア教育の視点で将来に生きる力を今後も考えて進めて欲しい。
2	豊かな心	人権を尊重する心の育成 学校規律の醸成 自己有用感を感じさせる取組充実	・道徳、特別活動、総合的な学習の時間の工夫 ・毎朝の全職員によるあいさつ・声かけの取組 ・G(グリーン)G(グリーン)H(ハートウート)活動の取組 ・全教育活動に於いて生徒による自主企画・学習運営による手法の徹底	生徒アンケートでの「人の役に立つ人になった」と思う 生徒アンケートでの「進んであいさつができる」 生徒アンケートでの「自主企画・自主運営を通して自分で考え、判断し、行動する力がついてきている」	「そう思う」「大体そう思う」生徒の割合は、91% 「そう思う」「大体そう思う」生徒の割合は、92% 「そう思う」「大体そう思う」生徒の割合は、91%	⇒	・地域行事などボランティア活動に参加している生徒の割合が非常に高い傾向が続いており、取組の成果が見られる。 ・自己有用感や「将来人の役に立つ人になりたい」など全校生徒の意識は高い。また、「将来人の役に立つ人になりたい」では、学年が上がるごとに割合が高くなっている。	⇒	・中学校来校時に、生徒から心地よい挨拶をしてきている。 ・生徒アンケートでの「学校生活は楽しい」で、「そう思う」「大体そう思う」の割合が90%以上よりも、「あまりそう思わない」「そう思わない」が9%が気になる。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 運動する機会の充実と体力向上	・早寝・早起きや携帯・スマホの弊害についての呼びかけ ・生徒全員入部制の部活動の充実 ・学年スポーツなどの企画	生徒アンケートでの「学校のきまりや約束ごとを守れている」 ・生徒全員入部制の状況 ・学年スポーツなどの企画等実施状況	「そう思う」「大体そう思う」生徒の割合は、94% ・生徒全員入部を達成 ・学年、学校全体の体育的行事の自主企画・自主運営達成	⇒	・「学校のきまりや約束ごとを守れている」ができていて割合は目標の90%を超えて成果が出ている。 ・体を動かすことが好きな生徒の割合も高まっている。	⇒	・基本的生活習慣の確立にむけては、現在、学校で頑張ってもらっているが油断をせずをお願いしたい。 ・体を動かす行事や部活動について、今後も取組を充実してほしい。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 家庭・地域・学校(保幼小高)との連携 キャリア教育(国際理解教育含む)の充実	・小中合同授業研修会の実施 ・西院デｲﾌﾞｱの実施 ・西院ふれあいコンサート(保・幼・小・中・地域参加)の実施 ・異文化理解、国際理解教育の充実	小中の連携が組織的に取れているか 取組の実施・参加状況と感想 韓国の姉妹校との交流学习(総合的な学習の時間)実施状況	・小中合同主任会を月1回ペースで実施。 ・年2回の授業合同研修会を実施。 各取組とも実施。地域及び保育所・幼稚園・小学校の取組後の感想は上場であった。 ハンブル講座を実施し、異文化を理解し、姉妹校へ作品の交流実施	⇒	・「小中の授業内容を参観し、意見交換をする機会や小中合同主任会が1年間通してできた」という声が多かった。 ・地域との連携を含んだ総合的な学習が実施でき、ポスター発表等で複数学年の双方の言語活動として取り組むことができた。 ・本校のCGH活動の質の向上を図るため、より一層、意義や目的を明確にして全教職員で支える体制を強化したい。	⇒	・今後も小・中一貫教育を大切にしていこう。 ・生き方探究チャレンジ体験(職場体験)では、伝統的な職場へも広げられるようなら、広げてみてはどうか。

4 総括・次年度の課題

- ・言語活動の定着や中高連携による探究活動などの取組について、関係者評価において評価をいただいた。さらに取組の推進を図っていく。
- ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
- ・次年度に向けて、学校運営協議会がさらに深い話し合いを進める工夫が必要。
- ・今後の義務教育小中9年間の生徒数の推移を見て、教育環境を整えていくようにしていきたい。